

中学校 保健体育科



1 学習評価で大切にしたいこと

(1) カリキュラム・マネジメントの視点から

小学校からの学習内容の系統性や単元相互の関連、体育分野と保健分野の相互関連などを踏まえて、効果的に指導事項を配置するとともに、評価を指導の改善に生かすことが大切です。

(2) 指導内容や指導方法と関連付けた評価の工夫

体育分野においては、個に応じた段階的な練習方法の例を示したり、個別学習やグループ学習、繰り返し学習などの学習活動を取り入れたりすることにより、子供一人一人が学習内容を確実に身につけることができるよう配慮した上で、評価を行うことが大切です。

2 評価の観点と趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す保健体育科の評価の「観点と趣旨」を確認することで、評価の基本的な枠組みを捉えることができます。単元の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、単元で中心的に扱う指導事項を位置づけていきます。中学校保健体育科では、体育分野と保健分野があるため、下記の「また、～」以降が保健分野の趣旨として示しています。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に自主的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復について学習に自主的に取り組もうとしている。

3 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を設定する際、〔体育分野〕は、学習指導要領の(3)「学びに向かう力、人間性等」における指導事項の文末を「～しようとしている」に変え、下記の♠～♣に該当する内容で分けて評価規準を作成します。「健康・安全」に関する内容は「～している」と表現します。〔保健分野〕は、学習指導要領の内容に「学びに向かう力、人間性等」に関する内容が示されていないため「主体的に学習に取り組む態度」については、保健分野の目標の(3)を参考にします。

- 例
- ♠ 自主的、積極的な態度 (例・自主的に、積極的に 等)
 - ♥ 公正・協力 (例・ルールやマナーを、フェアな 等)
 - ◆ 責任・参画 (例・場の準備、片付けと一緒に 等)
 - ♣ 共生 (例・一人一人に応じた、仲間の学習を援助 等)
 - ♣ 健康・安全 (例・健康、安全に気をつける 等)

〔体育分野〕第1学年及び第2学年「E 球技(ゴール型)」

単元の 評価規準例	①学習に積極的に(♠)取り組もうとしている。 ②練習の補助をしたり、仲間に助言したりして、仲間の学習を援助(♣)しようとしている。 ③マナーを守ったり、フェアなプレイを守ったり(♥)しようとしている。 ④作戦等についての話し合いに参加(◆)しようとしている。 ⑤健康・安全に留意(♣)している。
--------------	---

4 評価の留意点

知識・技能

体育分野では「知識」と「技能」の評価規準に分けて設定します。保健分野では、「心身の機能の発達と心の健康」「傷害の防止」で技能を含みますが、「知識」と「技能」を分けることなく総括的に捉えて指導し評価します。

思考・判断・表現

既習の知識及び技能を活用して、課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身につけているかを評価します。「表現」とは、「考えたことを友達に伝えること」であり、言葉のみならず動作等で表現していることも見取り評価します。

主体的に学習に取り組む態度

課題解決に向けての話し合いの姿や既習技を活用し学習に進んで取り組もうとしている姿や単元のゴールへ向けて自分でよりよいやり方を考え、工夫している姿等の意思的な側面を評価します。

(※評価の事例については国研資料「『指導と評価の一体化』のための学習評価」中学校 保健体育 第3編(P.39～)を御参照ください。)